

2021年“ウィズコロナ”を意識した士会活動を

会長 岩井 信彦 (神戸学院大学)

新しい年を迎えました。コロナ禍で年末年始もその業務に追われ、満足に正月気分を味わえなかった会員も多くおられるのではないのでしょうか。

なんといっても昨年はコロナに始まりコロナに終わった年でした。第一波では4月に緊急事態宣言が発出、5月には解除され一旦は収束するかに見えましたが、7月に入り再び感染者が増加し第二波とされました。再び感染者が急増、病院も重度の感染症患者で病床が埋まり、医療が非常に逼迫した状態となっています。この事態に政府はようやく関東1都3県に緊急事態宣言を発出しました。大阪府、兵庫県、京都府にも発出が検討されています。

昨年のはじめは、緊急事態宣言の発出を受け、繁華街や観光地の人出はぼったりと途絶えゴーストタウンの様相を呈していました。このような状況下、感染症対策に細心の注意を払いながら病院や施設、事業所で業務を続けた会員の皆様に会長として敬意を表したいと思います。

士会活動は社会情勢を見ながら8月末にWeb会議システムを利用し研修会を再開し、士会活動が徐々に戻りつつありましたが、ここにきて桁違いの感染拡大が起こっており、慎重に活動を行っているのが現状です。

さて、2021年度の活動としましては、まず第61回近畿理学療法学会(2022/1/16)の成功に向けギアをチェンジしていきます。さらに学術活動の推進(学会運営審議会、県学術大会の新しいスタイルの創出)、支部活動の推進(市町対応の活動)、“ウィズコロナ”を意識した士会活動の推進(ICT、ITの活用)、管理者ネットワークの機能強化、中堅・若手会員の士会活動参加推進を重点項目として挙げています。

“コロナ”は招かざる客です。しかしこれを逆手にとって組織変革を大胆に進めていくことが、2021年度の活動に求められていることかと思っています。患者・対象者に質の高い理学療法を提供できるよう、県民の皆様に「理学療法士さん」と愛着を持って呼んでいただけるよう、会員の皆様の活動をしっかり下支えできる組織でありたいと思っています。皆様、本年も本会の活動にご協力をよろしくお願い致します。